

県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	高体連
大会名	平成26年度 関東高等学校男子バスケットボール大会		
期 間	平成26年5月30日(金)・31日(土)・6月1日(日)		
会 場	小田原市総合文化体育館(小田原アリーナ)		

スケジュール

期 日	内 容	場 所
5月30日(金)	審判会議・講義	グランドホテル神奈中
5月31日(土)	競技第1日目 1・2回戦	小田原アリーナ
6月 1日(日)	競技第2日目 準決勝・決勝	小田原アリーナ

会議 講義 内容

東 祐二氏「今より一歩でも前に進むために」目標達成のための工夫という観点から自己分析チャートを用いて講義をされた。現在の目標に対して、「判定力」「知識」「体力」「調整力」「人間性」「精神力」6項目の達成度がどの程度なのか。自分自身と向き合い、現在の実力、何がしたい、どうなりたい、何が足りないのかを具体的に把握したうえで、何をすべきか考え、実行することが重要。常に改善・変化を求め続けることが前進となる。そして理解力、解析力、決断力、公平性、反応力の5つが合わさり「判定力」となる。これらをコート内外でinput→image→outputを繰り返すことが、「判定基準の構築」「自信」となる。

小澤 勤氏「今大会に審判員としてどう臨むか」選手・チームに、より良い試合をしてもらうという最終目標のために、間違えを最小限に抑える努力を常に続け、誠実に対応する。その中でマニュアルの4原則を見直し、ツールとして最大限に活用する。一つひとつ丁寧に判定し、その積み重ねで試合が終了したときに両チーム、審判が気持ちよく「Good job」と終わるように頑張りましょう。とお話をされた。

安西 郷史氏「より良い判定のために」リードについては「意識して受ける」、トレイルはリードよりもコート内を自由に動けるので「リードの見えないところはすべて見る」。この2つを意識してどのプレーを、どちらの審判が、どの角度で見るべきかをパワーポイントを用いて説明された。また、相手審判・T.O.・F.W.・チーム・観衆との協力や試合にあたっての準備についてお話をされた。

実技

担当試合	期 日	平成26年5月31日(土)	男子	Aブロック2回戦
	対戦カード	実践学園	VS	船橋市立船橋
	相手審判	菊地 真吾氏(群馬)		

ミーティング内容 主任 大庭 英裕氏(神奈川)

- ①リードでの位置取り、視野の取り方について。ボールプレイが相手のエリアにある時、完全にオフボールしか見ていないことがある。ボール中心になることは良くないが、ある程度ボール付近も把握していないと、どのようなバスケットボールが展開されているのか捉えられなくなる可能性がある。
- ②アングルよりも右側に位置取りをした後、何もなければ「戻る」という習慣の見直し。「戻る」のではなく、左側に見るべきプレイがあるから「行く」。何もなければ右側にステイする方が良いこともある。プレイヤーにとっては左右どちらのサイドであっても、バスケットに向かってプレイすることには変わりはない。
- ③リング下でのショットに対するスペースを捉えに、コートに踏み込むことがある。トレイルに任せべきところは任せないと、次に遅れる。

全体の感想

まず、高校男子関東大会に派遣していただきました、県協会、指導委員、日頃お世話になっている方々に感謝申し上げます。

A級昇格後、初めての県外派遣ということもあり、緊張する部分もありましたが、自分自身何が変わるわけではないので、試合中に関しては日頃と変わらぬ精神状態で挑みました。試合内容としては点差も開き、大きな問題はありませんでした。今後に向けて多くの課題が見つかりました。安西氏の講義の中で、「試合中にもっと困ってください。いろんなことに気付いてください」とあり、東氏からは「結局自分でやるしかない」との話がありました。いろいろな経験をし、話を聞いて、どう活かしていくかが大切だと実感しました。

今大会では、神奈川県の皆様には、細部にまで御配慮を頂き感謝致します。この場をお借りして、御礼申し上げます。今大会で学んだことを、今後の活動に活かし、県内の方にも伝えることができるよう、取り組んでいきたいと思っております。有難う御座いました。